

# 指導事例集

## 地歴・公民科

地歴・公民科の研究の概要	41
指導事例 1 「現代社会」の少人数授業における指導と評価	42
指導事例 2 「地理 B」の地理的スキルを高める指導と評価	56
指導事例 3 「日本史 B」の人物学習における指導と評価	66
成果と課題	80

## 地歴・公民科の研究の概要

学習指導においては、指導と評価の一体化が重視されており、教師は適切な評価を行い、指導の改善に生かすことによって指導の質を高める必要がある。生徒自身も学習計画を理解しながら授業に参加し、自己評価を行うことにより、自らの学習を主体的に進めることが大切である。

一方、地歴・公民科の授業やテストでは、4観点のうち「知識・理解」のみに偏った指導や出題が依然として多く見られることが指摘されている。

そこで、この研究では、「知識・理解」だけでなく、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「資料活用の技能・表現」という観点別の評価規準を作成して、学習の前や学習の過程における評価を行い、指導の改善に生かす評価の在り方を探るとともに、生徒による自己評価や相互評価など、様々な評価の工夫にも取り組んだ。

各指導事例の概要を以下に示す。

### 指導事例1 「現代社会」の少人数授業における指導と評価

少人数授業には、「生徒の多様な学習状況や興味・関心に応じたきめ細かな指導がしやすい」「生徒一人一人の発言機会が増える」などのメリットがある。この指導事例では、少人数授業における指導と評価の在り方を探ることをねらいとして、単元開始時には生徒一人一人のこれまでの学習状況を把握し、学習指導の過程においては4観点別の評価規準に基づく評価を行った。また、生徒の相互評価と自己評価も行った。

### 指導事例2 「地理B」の地理的技能を高める指導と評価

「世界の人口問題」について、地域性に着目してその現状や課題をとらえさせることを目指した。人口問題に関する資料やグラフを読み取ったり統計をグラフに表したりして地理的技能を高め、読み取った内容をもとに、背景や要因などを考察させた。単元開始時や学習指導の過程における評価、生徒の自己評価も実施した。

### 指導事例3 「日本史B」の人物学習における指導と評価

単元「織豊政権と幕藩体制の形成」において、特に重要な役割を果たした信長、秀吉、家康を順次とりあげ、主要な政策の目的や意義について考察させた。各人物の学習の区切りごとに確認テストと生徒の自己評価を実施して、基礎的・基本的な知識の確実な定着を図り、まとめとして、3人を比較したレポートを作成させ、それぞれの政策を総合的に考察させた。

< 研究協力員 >	栃木県立足尾高等学校	教 諭	齋藤 信行
	栃木県立田沼高等学校	教 諭	大嶋 俊彦
	栃木県立馬頭高等学校	教 諭	安達 崇志
< 研究委員 >	栃木県総合教育センター	研 修 部	副 主 幹 皆川 純男
	栃木県総合教育センター	研 究 調 査 部	指 導 主 事 杉山 正明

## 指導事例 1

## 「現代社会」の少人数授業における指導と評価

### 1 指導計画・評価計画

(1)対象生徒 2年生6名

(2)単元 「南北問題」

(3)単元の目標

南北問題の現状や解決への取組について理解させる。

我が国を含む先進国の経済協力の在り方について考えさせる。

南北問題解決のために、日本人としてどのように生きるかを考えさせる。

(4)単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
南北問題に関心をもち、日本などの先進国が果たすべき役割や日本人の生き方について考えようとしている。	南北問題の背景や現状についての知識をもとに、日本などの先進国が果たすべき役割や日本人としての生き方について考えている。	南北問題及び国際協力の現状や課題について、必要な資料を収集し、適切に選択して活用している。	南北問題の現状や解決への取組について理解し、その知識を身に付けている。

(5)単元の指導の流れ

南北問題について把握する。

日本やアジアNIE Sの成功事例を学び、発展途上国が豊かになるための条件を考える。

その条件を整備するために、先進国には何ができるかを考える。

個人（日本人）として何ができるか、何をしようとするべきかを考える。

段階では、まず診断的評価を行い、南北問題についての生徒の知識や理解度、興味・関心の程度などを把握する。続いて教師の講義により、南北問題について学ばせる。さらに、班別に具体的な発展途上国を選ばせ、現状を追究させる。

段階では、南北問題の解決策を探らせる。その際、何の手がかりもないままに生徒に考えさせると、単なる思いつきにとどまってしまう可能性が高いため、かつて発展途上国だった国が経済発展したり、先進国になったりした過程がわかる事例を示し、発展途上国が豊かになるための条件を考えるヒントにさせる。

段階では、で考えた条件を整備するために、先進国ができること、なすべきことを考えさせる。

段階では、今までに学んだことをもとに、個人（日本人）として何ができるか、あるいは何をすべきかを考えさせる。

(6)単元の指導計画・評価計画（4時間）

時	学 習 活 動 ( は使用教材等)	指導上の留意点	評 価 計 画 ( は対応する評価表)
1	南北問題に関するアンケートに回答する。( 診断的評価) アンケート 南北問題に関係のある資料を見る。 飢餓の写真	・ 飢餓の写真を見せ、南北問題の一端に触れさせる。	【関心・意欲・態度】 ・ 南北問題に関心をもっている。 【知識・理解】 ・ 「南北問題」という言葉の意味を知っている。 評価表 1 の 1
	人口爆発、モノカルチャー経済、累積債務など、南北問題についての基本的な事項を学ぶ。 ・ 教師の講義を聞き、ワークシート 1 に基本事項をまとめる。 ワークシート 1、教科書、資料 1	・ 先進国による取組の現状と課題についても触れる。 ・ 「資料 1」は各種資料集及びインターネットから教師が作成。	【知識・理解】 ・ 南北問題の現状や解決への取組について理解し、その知識を身に付けている。 評価表 1 の 2
	班編成をし、役割分担を決定する。 3 つの発展途上国から 1 か国を選択する。 ( 1 班 = ベトナム 2 班 = バングラデシュ 3 班 = タンザニア を選択 ) 班ごとに選択した国の現状をインターネットを利用して調べ、ワークシート 2 にまとめる。 ワークシート 2	・ 3 班編成とする。( 2 名 × 3 班 ) ・ インターネットを利用する際の注意点を指導する。	【資料活用の技能・表現】 ・ 必要な資料を適切に収集し、選択している。 評価表 2 の 1
2	調査活動( 前時の続き ) 班ごとに、発展途上国が豊かになるための条件を考察する。 ・ 日本及びアジア N I E S が発展した過程を学び、考察の参考にする。 資料 2、ワークシート 3	・ 日本及びアジア N I E S が発展した過程を記した「資料 2」を配布する。	【思考・判断】 ・ 発展途上国が豊かになるための条件を考えている。 評価表 2 の 2
3	班ごとに、先進国の果たすべき役割について考える。 ワークシート 4	・ まとめ方の指導を適宜行う。	【思考・判断】 ・ 先進国が果たすべき役割についての意見をもっている。 評価表 3

3	発表用資料を作成する。 ・各国の現状、発展途上国が豊かになるための条件、先進国の果たすべき役割、先進国の配慮すべき点を盛り込む。 発表内容、発表手順を決定する。	・各班の進捗状況を把握し、資料や発表に向けて具体的な助言を行う。	<b>【資料活用の技能・表現】</b> ・自分たちの考えたことを適切にまとめている。 評価表 3
4	班ごとに発表する。(各班10分) ・各国の現状、発展途上国が豊かになるための条件、先進国の果たすべき役割、先進国の配慮すべき点など	・質問等を促す。	<b>【資料活用の技能・表現】</b> ・的確でわかりやすい発表をしている。 <b>【思考・判断】</b> ・他班の発表を聞いて、南北問題について多面的・多角的に考察している。また、疑問点を見いだして質問している。 評価表 4 の 1
	相互評価票の記入を行う。 相互評価票	・発表の前に配付して説明を加えておく。	
	個人(日本人)として何ができるか、何をすべきかを考え、各自発表する。 ワークシート 4	・個人ごとに考えさせ、指名して発表させる。	<b>【思考・判断】</b> ・個人としての生き方についての意見をもっている。 評価表 4 の 2
	自己評価票の記入を行う。 自己評価票	・自己評価票を配付し、説明を加える。	<b>【関心・意欲・態度】</b> ・先進国が果たすべき役割と日本人としての生き方について考えようとしている。 評価表 4 の 3

#### (7) 教師による評価

この指導事例では、生徒が6名であるという少人数授業の利点を生かし、A(十分満足できる)、B(おおむね満足できる)、C(努力を要する)の3段階の判断基準を設定し、ワークシートの記述や授業中の発言を中心に生徒一人一人の学習状況の把握に努めた。なお、この評価は、生徒一人一人の学習状況(到達度)を把握し指導に生かすことを主たる目的として行ったものであり、学業成績に直接結びつけるものではない。

教師用の評価表(「評価表1～評価表4」)を各時間ごとに作成し、判断基準をもとに評価を行った。本稿では、これらの評価表と授業担当者が実際に評価した結果を、授業の展開順に示す。なお、評価表は説明のために「1の1」と「1の2」などと分割して掲載した(評価表3を除く)。

## 2 診断的評価（第1時間目）

### (1) 診断的評価の実施

診断的評価は、授業を実施する以前に、生徒の関心、意欲、技能、知識などの状態を把握するために行われる。評価の結果、これから学ぶ内容の前提となる基礎学力が十分でないときには、これを高める補充指導をしたり、指導計画を修正したりすることも必要になる。

ここでは、南北問題についての生徒の興味・関心、知識や理解の程度などを把握するために、質問紙法（アンケート）で行った。アンケートの項目とその回答状況を以下に示す。

	各生徒の回答状況					
	生徒 1	生徒 2	生徒 3	生徒 4	生徒 5	生徒 6
Q1. 「南北問題」ということばを聞いたことがありますか？ 聞いたことがある 聞いたことはない						
Q2. Q1で「聞いたことがある」と答えた人に聞きます。 どこでそのことばを聞きましたか？（複数回答可） 授業で テレビで 新聞で ポスターで その他					無 答	
Q3. 『南北問題』とはどのような問題だと思えますか？ 極点（南極・北極）における環境問題 北朝鮮と韓国の統一問題 宗教問題 先進諸国と発展途上国の経済格差						
Q4. Q1で「聞いたことがある」と答えた人に聞きます。 「南北問題」について知っていることを何でも結構ですので記入し てください。関係すると思われる言葉を挙げるだけでも結構です。		無 答				無 答
Q5. このアンケートに答えてみて、「南北問題」についてどのように 感じましたか？ 詳しく調べてみようと思った 多少興味を持った 興味を感じなかった						

### (2) 診断的評価の結果から

Q3の結果が示すように、生徒全員が「南北問題とは北朝鮮と韓国の統一問題である」と誤解しており、正しく理解している生徒はいなかった。

Q5に関しては、「興味を感じなかった」という生徒が2名いた。「関心・意欲・態度」授業の中で育てていくものであるため、この単元の授業が終了した時点で、「南北問題」に対する関心が高まり、「南北問題」解決に向けて取り組もうとする態度が生まれてくれば、授業を通して「関心・意欲・態度」が育成されたことになると考えた。

第1時間目の前半に使用した教師用の評価表及び判断基準を以下に示す。

評価表 1の1 (次の評価表以降、「生徒」の文字は省略)							
観 点	評 価 規 準	生 徒 1	生 徒 2	生 徒 3	生 徒 4	生 徒 5	生 徒 6
知・理	「南北問題」という言葉の意味を知っている。	C	C	C	C	C	C
関意態	南北問題に興味・関心をもっている。	B	B	C	C	B	B
評価の観点		判 断 基 準					
知識・理解	A	Q3で を選択し、Q4で適切な語句を答える。					
	B	Q3で を選択。					
関心・意欲・態度	A	Q5で を選択。					
	B	Q5で を選択。					

Bに満たないものがCである。(以下同じ)

### 3 南北問題の現状についての学習と評価 (第1時間目)

#### (1) ワークシート1

ワークシート1	
南北問題とは	
南北問題の現状	
先進国による取組	
南北問題について簡潔に説明しなさい。	

教科書 及び 資料1 の概要 [本稿ではキーワードのみ示す]			
・南北問題とは何か	・モノカルチャー経済	・植民地支配	・累積債務問題
・南南問題	・人口爆発	・食糧問題	・途上国の自助努力
・援助と国際協力	・日本の国際貢献	・ODA	・NGO

はじめに、「ワークシート1」の ~ について、教師による講義をもとに、教科書と資料1を使用してまとめさせた。資料1は教科書を補足する内容となっている。(上記 教科書及び 資料1 の概要」参照)

次に、教師がキーワードを示し、 ~ については、キーワードを用いて、自分の言葉で説明させた。教科書や資料1の丸写しではなく、きちんと理解した上でまとめさせることを意図した。なお、キーワードは、上記「教科書 及び 資料1 の概要」にあげたものである。

#### (2) 教師による評価

評価表1の2							
観 点	評 価 規 準	1	2	3	4	5	6
知・理	南北問題の現状や解決への取組について理解し、その知識を身に付けている。	B	B	B	A	A	A
評価の観点		判 断 基 準					
知識・理解	A	「ワークシート1」で、南北問題の現状や解決への取組について、キーワードを二つ以上用いて正しい説明がなされている。					
	B	「ワークシート1」で、南北問題の現状や解決への取組について、キーワードを一つ用いて説明を試みている。					



#### 4 具体的な国を取り上げて現状を追究（第1・2時間目）

##### (1) ワークシート2

第1時間目から第2時間目にかけて、班ごとに選択した発展途上国の現状について、インターネットを利用して調べさせ、ワークシート2まとめさせた。

ワークシート2	
調査対象国	
国の位置等	
歴史的経緯	
政治・経済の情勢	
日本の援助動向 (実績・計画)	
他の援助国・国際 機関の援助動向	
問題点・課題	
その他	

##### (2) 教師による評価

評価表2の1							
観 点	評 価 規 準	1	2	3	4	5	6
技・表	必要な資料を適切に収集し、選択している。	B	C	A	A	B	B
評価の観点	判 断 基 準						
資料活用の技能・表現	A	情報を適切に収集・選択・整理することができる。					
	B	情報を適切に収集することができる。					

#### 5 南北問題解決策の考察（第2・3時間目）

##### (1) 考察のさせ方

南北問題の解決策を考察させる際に、何の手がかりもないままに生徒に考えさせると、単なる思いつきにとどまってしまう可能性が高い。

複数の「現代社会」の教科書の記述内容を比較すると、明治維新後の日本の歴史から考えさせたり、アジアNIE Sの発展過程から考えさせたりと、教科書ごとに工夫されていることがわかる。

そこで、複数の教科書の内容を組み合わせた 資料2 を作成して生徒に提示し、考察の手がかりとさせた。具体的には、まず 「明治維新後の日本が発展途上国から脱却して中進国となるまでの過程」を、次いで 「韓国などのアジアNIE Sが工業国として成長した過程」を学習させた。さらに、この2つの学習を踏まえて、「どのような政治的・経済的・社会的な条件が揃えば、発展する可能性が出てくるのか」を考えさせた。

## 資料2 の概要

### 日本が中進国となるまでの過程

明治維新後、文明開化と富国強兵が国の方針となり、身分制度廃止・徴兵制・初等義務教育制により国民としての一体感を形成。憲法制定・議会開設による国民の政治参加。欧米帝国主義列強の植民地支配から逃れ、近代化を達成。

### アジアN I E S が工業国として成長した過程

一次産品輸出国からの脱却と工業化を図る。初めは輸入代替工業化政策を試みるが、その多くは失敗。次に、輸出指向型工業化を目指し、労働コストの低さを利用して、労働集約的な工業製品に特化。多国籍企業と結合して世界市場で販売し、経済成長を達成。

「発展途上国が豊かになるための条件」については、法律・教育制度・金融制度などの整備、役人の腐敗や汚職の防止などにより、外国からの技術や資金などの援助を有効に活用し、自国の力で工業化を達成して発展する力をつける、といったことが必要といわれる。ここでは、(日本) (アジアN I E S)の学習成果を生かした考察結果が得られれば十分であると考えた。

## (2)ワークシート3

ワークシート3	
日本の発展過程	
アジアN I E S の発展過程	
発展途上国が 豊かになるため の条件とは	

## (3)教師による評価

評価表2の2											
観 点	評 価 規 準					1	2	3	4	5	6
思・判	発展途上国が豊かになるための条件を考えている。					B	B	A	A	B	B
評価の観点	判 断 基 準										
思考・判断	A	「ワークシート3」及び の学習成果を生かして、発展途上国が豊かになるための条件を考えている。									
	B	「ワークシート3」または のいずれかを参考にして、発展途上国が豊かになるための条件を考えている。									

## (4)ワークシート4

ワークシート4	
先進国の果たすべき役割	
個人として何ができるか？	[ 評価場面は第4時間目「評価表4の2」]
「南北問題」の単元を学習をして、気づいたこと、感想などを簡潔に記入しなさい。	

前時までの学習内容を踏まえて先進国の果たすべき役割を考えさせた。発展的な内容として、「先進国の配慮すべき点」についても考えるよう促した。生徒の状況を見ながら、教師から「発展途上国が自らの力で発展しようとする意欲を支えることが大切である」という内容の説明を加えた。

(5) 教師による評価

評価表 3								
観 点	評 価 規 準		1	2	3	4	5	6
思・判	先進国が果たすべき役割についての意見をもっている。		B	C	B	B	B	B
技・表	自分たちの考えたことを適切にまとめている。		B	B	B	B	B	B
評価の観点		判 断 基 準						
思考・判断	A	先進国ができること、なすべきことを考え、先進国が配慮すべき点も考えている。						
	B	先進国ができること、なすべきことを考えている。						
資料活用の 技能・表現	A	自分たちの考えたことを、「ワークシート4」に他の班にわかりやすく説明できる表現でまとめている。						
	B	自分たちの考えたことを、「ワークシート4」にまとめている。						

6 追究した課題の発表と生徒の相互評価（第4時間目：研究授業）

(1) 発表

各国の現状、発展途上国が豊かになるための条件、先進国の果たすべき役割、先進国の配慮すべき点など、各班が追究してきた課題について、1班（ベトナム）、2班（バングラデシュ）、3班（タンザニア）の順で発表させた。

各班とも2名が分担して発表を行った。内容的な整合性は見られたが、話し方が単調であったことや、説明用のレジメが間に合わなかったことなどから、重要ポイントがわかりにくい発表もあった。

発表後には、他班の生徒に対し、疑問点やわかりにくかった点などを質問するように促した。

(2) 教師による評価

評価表 4 の 1								
観 点	評 価 規 準		1	2	3	4	5	6
技・表	的確でわかりやすい発表をしている。		B	C	B	B	B	C
思・判	他班の発表を聞いて、南北問題について多面的・多角的に考察している。また、疑問点を見いだして質問している。		C	C	B	C	A	C
評価の観点		判 断 基 準						
資料活用の 技能・表現	A	自分たちの調べたことや考えたことを発表し、レジメを用意するなどして他の班にわかりやすく説明している。						
	B	自分たちの調べたことや考えたことを発表している。						
思考・判断	A	他班の発表を聞いて、自分たちが調べた国と比較するなどして、疑問点を質問している。あるいは、質問に的確に答えている。						
	B	他班の発表を聞いて疑問点を質問している。あるいは、質問に答えている。						

(3)生徒の相互評価

生徒の相互評価を実施したねらいは、以下の通りである。

- ・他班の発表を真剣に聞こうとする授業態度を醸成する。
- ・他班の発表態度や発表内容から、自分の学習過程を振り返って学習の改善に生かす姿勢を身に付けさせる。
- ・自班と他班の調査内容を比較して、その共通点や相違点を確認することを通し、多面的・多角的に考察する力を育成する。

(4)相互評価票

生徒の負担を考慮し、評価項目数が多くなりすぎないように精選した。相互評価票には、「担当教師から」という欄を設け、「どうしたらよいか」「何が不足しているか」といったアドバイスを書いて生徒に戻した。生徒の良い点を認めるとともに、達成度の不十分な生徒の指導にも生かすなど、個々の生徒に対してねらいを伝え「個に応じた指導」を図った。

なお、評価項目のうち初めの二つは、真面目に授業を受ける態度を生徒に促すことをねらいとして入れてある。

また、右側に、評価項目と評価の4観点とのかかわりを 印で示した。

<b>現代社会 相互評価票（生徒用）</b>					評価の4観点 とのかかわり				
評 価 項 目		評 価			担当 教師 から	関 意 態	思 判	技 表	知 理
		1 班	2 班	3 班					
班内での役割分担を積極的に行ったか？		(班内のメンバ							
班内で協力して取り組んだか？		ーについて)							
発表の方法や資料の選択は適切であったか？									
発表された国の現状がよくわかったか？									
しっかりとした論拠に基づいた内容だと考えられるか？									
自分たちの発表にはない考え方が見られたか？									
質問を受け、疑問点に適切に回答することができたか？									
評価について：A（十分満足である） B（おおむね満足である） C（努力・改善の必要がある）									
他班の発表に対する感想・意見を記入しなさい。									
班									
班									

生徒が実際に記入した相互評価票を見ると、記入方法がよくわかっていなかった生徒もいた。生徒が理解できるよう十分に説明する必要がある。また、生徒にとって、相互評価を行うのは初めてのことであり、発表内容に耳を傾けながら評価することは難しかった様子であるが、おおむね真面目に相互評価に取り組んでいた。

「他班の発表に対する感想・意見」欄に記された事項は、以下の通りである。

1班...・細かいところまで調べてあり分かりやすかった。

- ・とても細かいところまで調べてあった。聞きやすかったし、分かりやすかった。
- ・話す態度に改善する余地がある。

2班...・歴史が分かりにくかったが、問題点などは良くまとめてあり分かりやすかった。

- ・特に問題点が理解しやすかった。自分が知らないことまでよく分かった。
- ・発表自体はすごく良かった。言葉に詰まらないように発表しましょう。

3班...・バングラデシュの色々なことが分かった。資料を作り、分かりやすかった。

- ・わかりやすい調べ方だった。言葉遣いも良く、内容も良かった。
- ・最初声が小さく分かりにくかったが、途中から聞き取りやすくなった。
- ・声が小さく聞こえない部分があった。

## 7 個人（日本人）として何ができるかを考察（第4時間目：研究授業）

### (1) 考察・発表

今までに学んだことをもとに、個人（日本人）として何ができるか、あるいは何をすべきかを考えさせ、指名して発表させた。

生徒の発表内容は、以下の通りである。

生徒1：見かけたら募金をしたい。

生徒2：コンビニのおつりを募金する。

生徒3：ボランティア。募金。モノ（食べ物）を残さない。

生徒4：ボランティアをしてみたいと思った。募金をする。

生徒5：国家規模の援助と同じことではなく、テレカや中古衣料を送るなど、身近にできることをしたい。

生徒6：できることを探してみる。

この類の身近な行動としては、他には「書き損じハガキの回収」「未使用プリペイドカードの回収」「フェアトレード」などが考えられる。

### (2) 教師による評価

評価表4の2						
観 点	評 価 規 準					
思・判	個人（日本人）としての生き方についての意見をもっている。					B A B B A C
評価の観点	判 断 基 準					
思考・判断	A	授業で学んだことをもとに、個人としてできることを自分の言葉で具体的に説明できる。				
	B	個人として何ができるかを考えている。				

## 8 単元を振り返っての自己評価

### (1) 生徒の自己評価

単元全体の学習状況を振り返っての自己評価をさせた。評価は、A（十分満足である）、B（おおむね満足である）、C（努力・改善の必要がある）の3段階とし、評価項目数が多くなりすぎないようにした。また、この単元で学んだこと、考えたこと、反省点などについても自

由に記述させた。

以下に、6名の生徒による自己評価の結果とともに、評価項目と評価の4観点とのかかわりについて 印で示す。

評価項目	生徒1	生徒2	生徒3	生徒4	生徒5	生徒6	関意態	思・判	技・表	知・理
南北問題の現状や解決への取組を理解することができたか？	A	B	A	B	B	A				
班内の役割分担や活動を積極的に、また協力しながら行ったか？	B	A	B	B	B	B				
情報を適切に収集し選択することができたか？	B	A	B	C	B	B				
発展途上国が豊かになるための条件を考えることができたか？	A	B	A	B	A	B				
自分たちが考えたことをまとめ、分かりやすく発表することができたか？	A	A	C	C	B	C				
他の班の発表をメモを取りながら真剣に聞いたか？	B	B	B	C	A	B				
他班の発表を聞いて、疑問点や質問を考え、発問することができたか？	B	B	C	C	B	C				
この単元を学習して、先進国の役割や日本人の生き方について考えるようになったか？	B	B	B	B	B	B				

この単元で学んだこと、考えたこと、反省点として記された事項は以下の通りである。

生徒1：自分は南北問題を知りませんでした。南北問題を調べているうちに色々な国が食糧不足であることが分かった。自分も何か役に立つことがしたい。

生徒2：貧富の差がありすぎるし、教育を受けられないくらい貧しい国もある。

生徒3：北と南では経済格差がありすぎる。北の人たちは援助活動をもっと頑張るべきだ。

生徒4：北と南では発展の違いで先進国と発展途上国が生まれてしまった。日本人として何が出来るかを考え、自分たちのできる中で国際協力をしていきたい。

生徒5：「南北問題」という言葉も知らなかったが、勉強する中で色々分かるようになってきた。

生徒6：食糧問題や教育を受けられない国があることを、勉強の中で初めて知った。授業で調べなければ一生知らなかったと思う。

## (2)自己評価の結果から

自己評価の結果と教師による評価の結果にはかなりの違いがあり、教師から見ると真面目に取り組んでいると思われる生徒が厳しい自己評価をしたり、その逆のケースがあったりした。

## (2)教師による評価

評価表4の3							
観 点	評 価 規 準						
関意態	先進国が果たすべき役割と日本人の生き方について考えようとしている。	1	2	3	4	5	6
		A	B	B	A	B	B
評価の観点	判 断 基 準						
関心・意欲・態度	A	南北問題に関心を持ち、先進国が果たすべき役割と日本人の生き方について考えている。					
	B	南北問題に関心を持ち、先進国が果たすべき役割あるいは日本人の生き方のどちらかについて考えている。					

(3) 「関心・意欲・態度」の変容について

「関心・意欲・態度」の、単元開始時と単元終了時のそれぞれにおける評価結果を再掲する。

「生徒4」に見られるように、単元開始時には興味を感じていなかったが、単元終了時には積極的に南北問題について考察するようになった生徒もあり、「関心・意欲・態度」についての単元の目標を達成できたと考えられる。

評価場面	評価規準	1	2	3	4	5	6
単元開始時	南北問題に興味・関心をもっている。	B	B	C	C	B	B
単元終了時	先進国が果たすべき役割と日本人の生き方について考えようとしている。	A	B	B	A	B	B

## 9 単元のまとめとしての課題

### (1) 考え方

第4時間目に、生徒が「個人(日本人)として何ができるか、何をすべきか」として考えたことは、募金活動が主であった。

生徒の「関心・意欲・態度」が、単元開始時と単元終了時で変化していることから考えると、多くの人に南北問題を知ってもらう(関心を持ってもらう)ことも、生徒が身近にできる有効な行動であろう。南北問題の存在を知ることから始まり、自分にできる身近な行動をしていく中から、NGOや海外青年協力隊で活躍する人材が出てくる可能性もある。

そこで、当初の指導計画にはなかったが、多くの人に南北問題を知ってもらうため、単元の学習を通して考えたことを、ポスターという形で表現させることにした。このためには、南北問題の現状や解決への取組を理解し、課題追究や考察など単元を通して、様々な学習活動に取り組んできたことによって身に付けてきた総合的な力が必要になる。従って、単元のまとめとして、「知識・理解」にとどまらない評価ができると考えた。

ポスターは人目を引くことが目的ではなく、南北問題の内容にかかわることを正しく伝える必要があるので、ポスターには南北問題に関するキーワードを入れたり、キーワードの意味を示したりすることが適切であると考えた。

### 課 題

南北問題をより多くの人に知ってもらうために、発展途上国の現状や先進国の人々の取組について表現したポスターを作成しなさい。

その際、ポスターの内容に関するキーワードを1つ以上入れること。また、何を表現したのか、作成の意図も記すこと。

ポスターは鉛筆書きで結構です。

なお、右の絵はNGOのロゴマークです。参考として掲載しましたが、あくまで参考なので、このマークを真似ることがないようにすること。



(4)判断基準

A	キーワードが入っていて、キーワード、図の内容、作成の意図に整合性があり、 図として完成している。
B	キーワードが入っていて、図の内容と作成の意図に整合性がある。

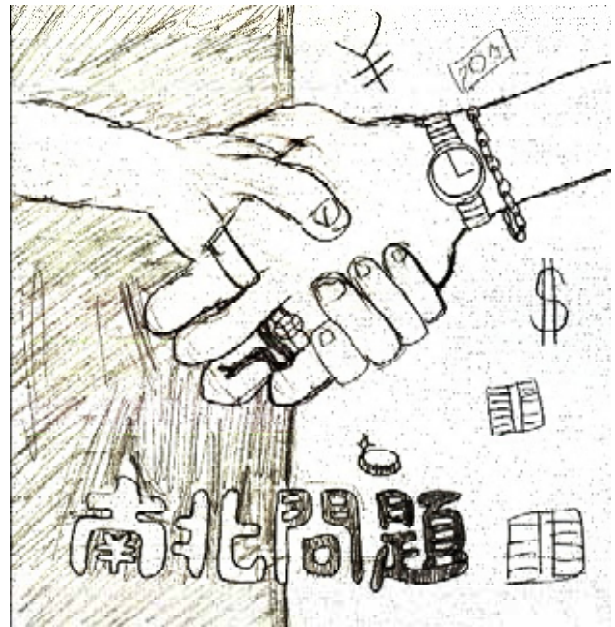
(5)解答例

実際に生徒が作成した図の例を示す。



「パンをみんなで奪い合っている。それぐらい食糧が足りないことを訴えたい。」

(生徒5：評価A)



「先進国と途上国の人々が一緒に協力して南北問題の解決に取り組みましょうという意味。」

(生徒3：評価A)

10 成果と課題

(1)個に応じた指導

診断的評価により、生徒の「南北問題」という言葉の理解度を把握することができ、授業を進めるに当たっては、中学校までの学習内容も含めて丁寧に指導する必要があることがわかった。

提出させたワークシートには、学習に対する助言を書き添えて返却した。また、相互評価票と自己評価票にも、「担当教師から」という欄を設け、助言を書き添えて返却した。こうした指導の繰り返しは、評価がC（努力を要する）であった生徒への補足的指導としても大いに成果があり、他の生徒も、第1時間目から第4時間目へと進むに従って、自分の考えをまとめる力が次第に向上した。

このように、生徒一人一人の学習状況を把握し、評価しながら授業を進めることができ、評価を授業の改善に生かすことができた程度できたと考える。

(2)「関心・意欲・態度」の変容

診断的評価の時点で、「南北問題」という言葉を知らない状態では、興味・関心が低いのは当然である。まずは南北問題という言葉の意味を知り、その悲惨さの一面に触れることで「何でこんなひどい状態だろう？」などの疑問が生じ、「もっと知りたい」と、授業を通して学ぼうとする意欲が高まることにつながると考えられる。そして、様々な学習活動を通じて、南北



問題を深く知り、解決の方向を考察することにより、南北問題への「関心・意欲・態度」が向上していったものとする。

この単元の終了後、校内の国際理解教育として、ラオスにおけるNGO活動に関する講演があった。その際、このクラスの生徒達が周囲の友人達とNGOの活動などについて話し合ったり、説明したりしている様子が見られた。普段、生徒が授業の内容に関する話題を授業以外の場面で取り上げることは稀であることからすると、この単元を学習した結果、国際社会に目を向け、どのように貢献できるか、どのように生きるかを考える態度が芽生えてきたことを感じた。

### (3) 生徒の課題追究学習（発表）

生徒は、発表に向けて、班内で非常に良く話し合い、まとめの作業を行っていた。しかし、作業時間不足のために発表用資料（配布用レジュメ）の作成が間に合わなかった班もあり、他班の生徒は資料なしで発表を聞くことになってしまった。さらに、発表に不慣れであったことなども加わり、ややわかりにくい発表となってしまう、他班が調べた内容について理解を深めるまでには至らなかった。

生徒の実態を十分考慮して時間配分を行うことと、発表用資料を作成することを通じて発表者自身の理解を深めさせることが必要であると感じた。

### (4) 今後の課題

単元の評価規準を設定し、評価計画を組み立て、授業中に評価することは、予想した以上に大変なことであった。特に、各評価場面における判断基準の設定と、その評価方法については、まだまだ改善の余地がある。試みとして、研究授業の際に、授業者以外の研究協力員も観察による評価を実施したが、その評価結果には、ややバラツキが見られた。PDCAサイクルに基づく実践を繰り返しながら、評価の技法を向上させ、評価の客観性・信頼性を高めていく必要がある。

## 指導事例 2

## 「地理 B」の地理的技能を高める指導と評価

### 1 指導計画・評価計画

(1)対象生徒 2年生12名(選択授業)

(2)単元 「世界の人口問題」

(3)単元の目標

人口増加や人口移動・人口構成には様々な類型があることを理解させ、世界の人口の現状を把握させる。

発展途上国と先進国における人口問題について追究させ、人口問題の地域性をとらえさせる。

(4)単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
人口問題に対する関心と課題意識が高まっている。	人口問題に関する地理的事象から課題を設定し、世界的視野から地域性を踏まえて多面的・多角的に考察している。	人口問題の現状や解決の方向を世界的視野からとらえるために、地図やグラフの読み取り、統計のグラフ化や地図化などを通して、学習に役立つ情報を適切に選択して活用している。	人口問題は地球的課題であるとともに各地域によって現れ方が異なっていることを多面的・多角的に理解し、その知識を身に付けている。

(5)単元の指導計画(4時間)

時	学習活動( : 使用教材等)	指導上の留意点	評価計画
1	「人口」に関するアンケートに回答する。(診断的評価) 事前アンケート		【関心・意欲・態度】 ・人口問題に関心をもっている。 【知識・理解】 ・世界の人口についての基礎的知識がある。
	世界、日本、栃木県、学校のある市町村の現在の人口を確認する。 ワークシート1、統計資料他		
	世界人口の変化を表すグラフを見て人口増加の様子を把握する。 教科書、ワークシート1	・答えが出ない場合は、増加のスピードに注目させる。	【資料活用の技能・表現】 ・教科書や地図帳の図やグラフを正しく読み取っている。
	世界の人口の概要(人口密度、出生率・死亡率、人口増加率、人口移動など)について理解する。 地図帳の主題図、 ワークシート1	・人口が集中している地域、人口増加率の高い地域や低い地域など、具体的に地域性の違いに着目させる。	

	人口増加の種類と類型を学ぶ (自然増加、社会増加、多産多死型、多産少死型、少産少死型)		
2	人口ピラミッドにはさまざまな型があることを学び、それぞれの型が表す特色を考察し、理解する。 教科書、ワークシート2 統計をもとに、日本の人口ピラミッドを作成する。 ワークシート2 日本と3か国(コンゴ、メキシコ、イギリス)の人口ピラミッドを示し、各国の状況を考察する。 ワークシート2	・教科書にあるそれぞれの型の図を読み取らせる。  ・先進国と発展途上国の違いに気付かせる。	【資料活用の技能・表現】 ・人口ピラミッドから人口構成の特色を読み取ったり、統計をもとに人口ピラミッドを作成したりしている。 【思考・判断】 ・人口ピラミッドから、その国の人口についての状況を考察している。
3	産業別人口構成のグラフを読み取る。(中国、ブラジル、インドネシア、日本、フランス、アメリカ) 教科書、ワークシート3 統計をもとに産業別人口構成のグラフを作成する。(イギリス、キューバ、ドイツ) ワークシート3	・座標軸の見方を説明する。 ・先進国と発展途上国の違いに気付かせる。	【資料活用の技能・表現】 ・産業別人口構成のグラフから特色を読み取ったり、統計をもとに産業別人口構成のグラフを作成したりしている。
	インドの人口ピラミッドと人口動態のグラフを見て、インドの人口の特徴を理解し、人口急増の背景や影響について考察する。 教科書、ワークシート4	・第2時間目に学習したことを参考にしながら、インドが抱える課題は多くの発展途上国に共通であることに気付かせる。	【知識・理解】 ・インドの人口の特徴を理解している。 【思考・判断】 ・人口急増の背景とそれがもたらす影響について多面的・多角的に考察している。
4	スウェーデンの人口ピラミッドと人口動態のグラフを見て、スウェーデンの人口の特徴を理解し、少子高齢化の背景や影響について考察する。 教科書、ワークシート5	・第2時間目に学習したことを参考にしながら、スウェーデンが抱える課題は多くの先進国に共通であることに気付かせる。	【知識・理解】 ・スウェーデンの人口の特徴を理解している。 【思考・判断】 ・少子高齢化の背景とそれがもたらす影響について多面的・多角的に考察している。
	自己評価票の記入を行う。 自己評価票	・自己評価票を配付し、説明を加える。	【関心・意欲・態度】 ・人口問題に対する関心と課題意識が高まっている。

## 2 診断的評価 (第1時間目)

### (1) 診断的評価の実施

世界の人口問題についての生徒の知識や理解度、興味・関心の程度などを把握するために、質問紙法(アンケート)で行った。その項目と実践事例における回答状況を以下に示す。

### 地理B事前アンケート

( )内が12名中の回答者数

Q1. 現在、世界にはどれくらいの人住んでいるか、知っていますか。

知っている(5) 知らない(7)

Q2. 現在、世界の人口はどれくらいだと思いますか。

14億人(0) 24億人(0) 34億人(3) 44億人(0) 54億人(5) 64億人(4) 74億人(0)

Q3. 「人口問題」という言葉を聞いたことがありますか。

聞いたことがある(10) 聞いたことはない(2)

Q4. Q3で「聞いたことがある」と答えた人に聞きます。どこでその言葉を聞きましたか。

(複数回答可)

授業で(9) テレビで(0) 新聞で(2) ポスターで(0) その他(0)

Q5. Q3で「聞いたことがある」と答えた人に聞きます。どんな人口問題があるか、

知っていることを何でも良いので挙げて下さい。(自由記述)

過疎化問題(3) 子供の減少(4) 高齢者が多くなっている(1)

難民問題(1) ドーナツ化現象(1)

Q6. 世界の人口の現状と、世界の人口問題について、興味を感じますか。

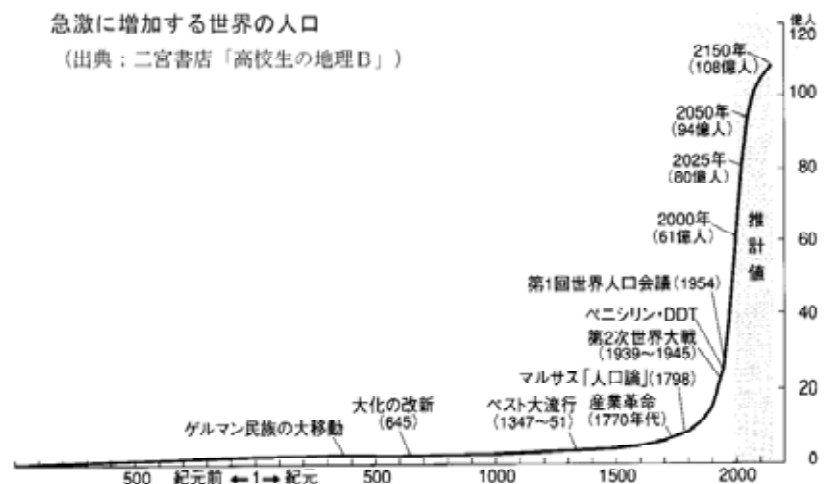
感じる(1) 少し感じる(4) あまり感じない(6) 感じない(1)

## 3 世界の人口に関する資料・グラフの読み取り (第1時間目)

### (1) 世界の人口増加の様子

教科書に掲載されている、世界人口の変化を表すグラフ(右図)を見て、世界の人口がどのように変化(増加)してきたかを把握する。

産業革命と第2次世界大戦以降の急増がポイントとなる。



### (2) 世界の人口の概要

地図帳の主題図(人口密度、出生率・死亡率、人口増加率、人口移動など)を見て、人口密度の高い地域や低い地域はどこか、人口増加率の高い地域や低い地域はどこか、人口はどの地域からどの地域への移動が多いか、などについて理解する。

## ワークシート1 世界人口の増加と分布（抜粋）

1 現在の人口を調べよう。

世界 = 約 (            ) 人、            日本 = 約 (            ) 人、  
 栃木県 = 約 (            ) 人、            町 = 約 (            ) 人、

2 世界の人口の推移を示した教科書のグラフを見て、わかることを挙げてみよう。

3 地図帳 ページの図 ~ を見て、わかることを挙げてみよう。

人口密度
出生率・死亡率
人口増加率
人口移動

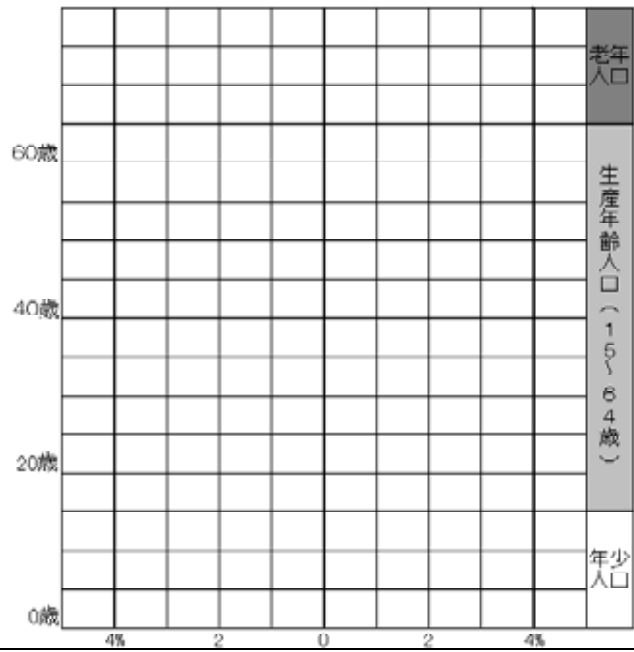
## 4 人口ピラミッドの読み取り（第2時間目）

### ワークシート2 性別・年齢別人口構成（抜粋）

1 統計をもとに、日本の人口ピラミッドを作成してみよう。

年齢	男	女	年齢	男	女
0～4	2	2	40～44	3	3
5～9	2	2	45～49	3	3
10～14	3	2	50～54	4	4
15～19	3	3	55～59	3	3
20～24	3	3	60～64	3	3
25～29	4	4	65～69	3	3
30～34	4	4	70～74	3	3
35～39	3	3	75以上	2	5

単位は% 小数点以下四捨五入(2002年)



2 作成した人口ピラミッドを見て、日本の人口の特徴を読み取ってみよう。

3 地図帳 ページの、コンゴ、メキシコ、イギリスの人口ピラミッドを見て、各国の人口の特徴を読み取ってみよう。

コンゴ
メキシコ
イギリス

5 産業別人口構成のグラフの読み取り (第3時間目)

ワークシート3 産業別人口構成 (抜粋)

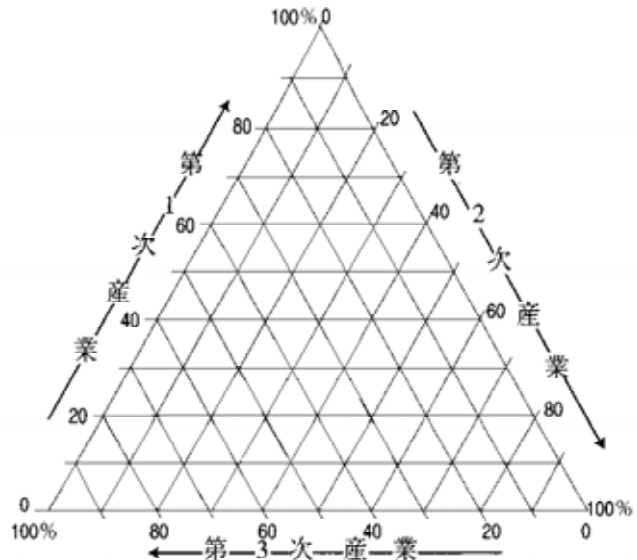
1 教科書 ページの図4「おもな国の産業別人口構成」のグラフを見て、中国、ブラジル、インドネシア、日本、フランス、アメリカの産業別人口の割合(%)を読みとろう。

	中国	ブラジル	インドネシア	日本	フランス	アメリカ
第1次産業	%	%	%	%	%	%
第2次産業	%	%	%	%	%	%
第3次産業	%	%	%	%	%	%

2 次の統計をもとに、各国の産業別人口構成を右のグラフに書き込もう。

産業別人口構成 (%、1998年)

国名	第1次	第2次	第3次
イギリス	1.7	25.9	72.4
キューバ	23.1	28.8	48.1
ドイツ	2.9	33.0	64.1



6 インドの人口問題 (第3時間目)

ワークシート4 インドの人口問題 (抜粋)

1 教科書 ページの図「インドの人口動態・人口ピラミッド」を見て、わかることを挙げてみよう。

インドの総人口とその変化について	
出生率と死亡率	
人口ピラミッドが示すこと	
両方の図から考えられること	
インド政府の政策	
インドの人びとの考え方	

7 スウェーデンの人口問題 (第4時間目)

ワークシート5 スウェーデンの人口問題 (抜粋)

1 教科書 ページの図「スウェーデンの人口動態・人口ピラミッド」を見て、わかることを挙げてみよう。

スウェーデンの総人口とその変化について	
出生率と死亡率	
人口ピラミッドが示すこと	
両方の図から考えられること	
スウェーデンの福祉制度	
スウェーデンがかかえる課題	

## 8 単元を振り返っての自己評価（第4時間目：単元終了時）

### (1) 生徒の自己評価

単元の最後に、単元全体を振り返った自己評価を生徒に行かせた。自分が取り組んだ成果や課題、進捗の状況などから、目標に向かってどれだけ向上しているかを判断する評価であることを意識させるため、自己評価はAA（とても良くできた）、A（良くできた）、B（ある程度はできた）、C（あまりできなかった）の4段階とし、「ふつう」をなくした。

評価項目数は、生徒の負担を考慮し、多くなりすぎないようにした。「指導事例1」と同様に、一部に授業を受ける姿勢・態度の評価項目も入っている。

また、しっかりと振り返らせるため、「この単元を学んで、印象に残ったことや質問」について文章で記述する欄も設けた。

以下に、生徒12名による自己評価の集計結果と、評価項目と評価の4観点とのかかわりについて 印で示す。

具体的評価項目	自己評価				関 意 態	思 判	技 表	知 理
	AA	A	B	C				
教科書や地図帳の図やグラフを見て、その特色を意欲的に読みとろうとしましたか。	1	8	3	0				
ワークシートに意欲的に取り組みましたか。	2	7	3	0				
人口急増の背景とそれがもたらす問題をいろいろな角度から考えましたか。	0	3	9	0				
人口問題の解決にはどのような取り組みが必要か、いろいろな角度から考えましたか。	1	3	8	0				
教科書、地図帳、ワークシートの図やグラフを、正確に読みとることができましたか。	1	5	6	0				
表を見て、産業別人口構成の図を正確に作成できましたか。	7	4	1	0				
世界の人口の現状を理解しましたか。	3	8	1	0				
人口増加や人口移動・人口構成のいろいろな型を理解しましたか。	2	9	1	0				
発展途上国と先進国における人口問題とその取組を理解しましたか。	1	6	5	0				
人口問題は、地球的規模の課題であることと、その解決には地域性を踏まえた国際間の協力が必要なことを理解しましたか。	0	5	5	2				
総 合 評 価	0	8	4	0				

「この単元を学んで印象に残ったことや質問」として記された主なものを以下に示す。

- ・地図の読みとりは苦手だったけど、だんだんできるようになってきてよかったです。
- ・グラフを読み取るのは難しくて、読み取るのに大変でした。
- ・出生率が高いと死亡率が高いことに気づいた。
- ・産業別の三角グラフは楽しかった。
- ・人口問題についてあまり考えていなかったの、これからは少しずつ考えていこうと思う。
- ・世界の人口について、知らないことが多かったことに気づいた。
- ・今まで人口のことを真面目に考えたことはなかった。でも、勉強して、このままでいくと何十年後かは大変なことになることがわかった。

- ・こんなに人口が多いままでいくと、食糧問題が心配です。
- ・人が死なないコトはいいけど、若い人が少なくて大丈夫なのかなあ？！
- ・日本の出生率が上がるためには、もっと施設や赤ちゃんを育てやすい環境に改善できたらいいと思いました。
- ・発展途上国と先進国の人口問題がそれぞれあり、この問題を解決するには互いの国(先進国)の協力が必要なんだと思いました。

## (2)自己評価の結果から

「事前アンケート」で、人口問題には「あまり興味を感じない」または「感じない」と答えていた生徒も、単元の学習をしていくなかで、関心をもつようになり、印象に残ったものがあったりしたようである。

授業中には、普段以上に意欲的に取り組む姿が見受けられ、教師側から見ても、おおむね妥当な自己評価結果であると考えられる。生徒個人の状況を見ると、真面目な生徒ほど自己評価を厳しく行っているように感じられる。

文章での振り返りを読むことにより、各生徒及び生徒全体の定着状況を把握することができ、学習内容を正しく身に付けていない生徒に再確認させるなどの「個に応じた指導」ができた。



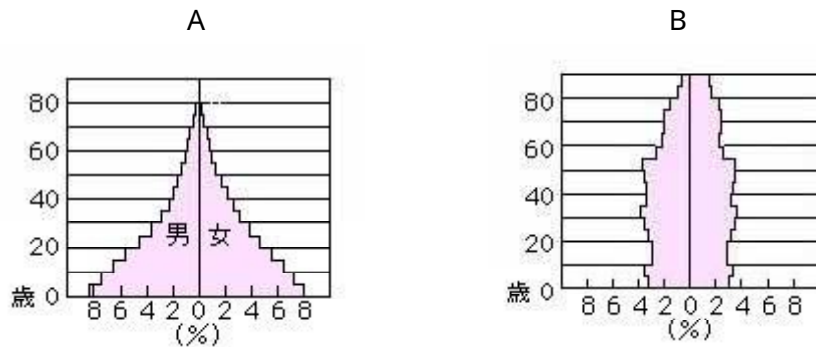
## 9 ペーパーテストの工夫

### (1) 考え方

単に知識を問う問題だけではなく、授業で学んだことをもとに生徒に考えさせ、「思考・判断」や「資料活用の技能・表現」を問う問題の工夫をした。

### (2) グラフの読み取りを中心とした問題

問 下の人口ピラミッド A・B に関する設問に答えなさい。



#### (1) 人口ピラミッド A について答えなさい。

どの国の人口ピラミッドか。〔語群〕から選び記号で答えなさい。

でその国を選んだ理由を簡単に書きなさい。

この国ではどのような人口問題が見られるか答えなさい。

#### (2) 人口ピラミッド B について答えなさい。

どの国の人口ピラミッドか。〔語群〕から選び記号で答えなさい。

でその国を選んだ理由を簡単に書きなさい。

この国ではどのような人口問題が見られるか答えなさい。

〔語群〕ア エチオピア      イ 中国      ウ スウェーデン      エ 日本

判断基準（採点基準）

A	年少人口の割合と老年人口の割合の両方を含め、グラフ全体を読み取っている。
B	年少人口の割合または老年人口の割合の片方のみ読み取っている。
A	当該国の人口問題の現状及び背景や将来予想される影響を的確にとらえている。
B	当該国の人口問題の現状をおおむねとらえている。

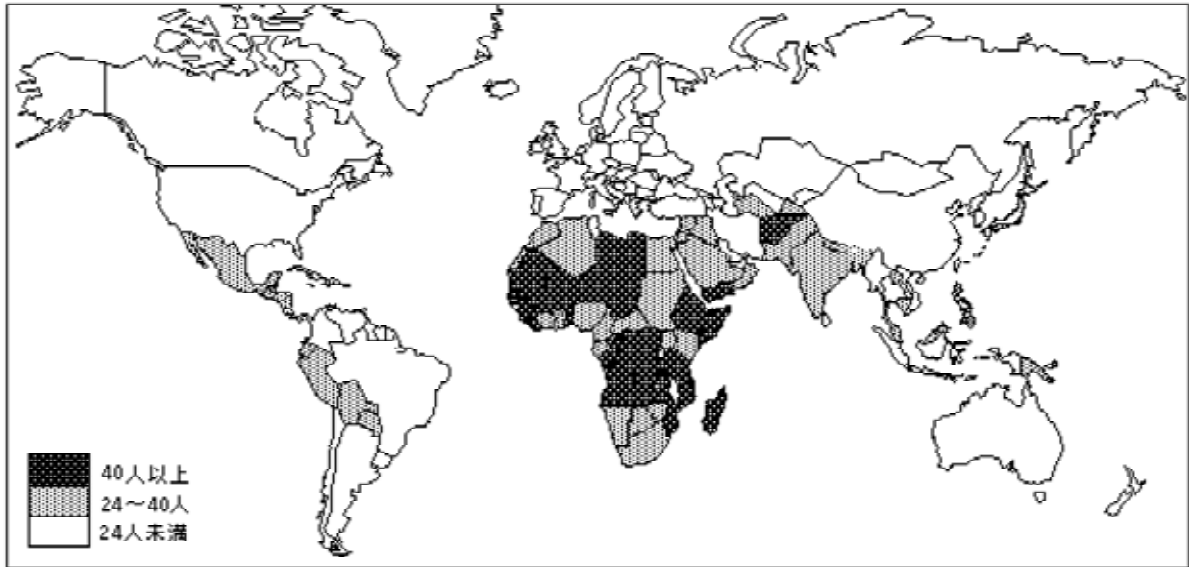
生徒の解答例

- (1)
  - ・多産多死型の人口ピラミッドだから、発展途上国のエチオピア。（評価 A）
  - ・この型は発展途上国に見られる型だから。（評価 B）
  - ・エチオピアは、子供がたくさん生まれているので、今後医療の進歩で、死ぬ人が減り人口の急増が起こる。そして、食糧や雇用の問題が起きる。（評価 A）
  - ・人口増加率が高く、人口が急増しているため、貧富の差が大きい。（評価 B）
- (2)
  - ・子供の割合が少なく、高齢者の人口の割合が大きい。これは先進国に見られる型だから。（評価 A）
  - ・高齢者の割合が高いのは、先進国に見られるから。（評価 B）
  - ・高齢・少子社会となっていて、高齢者が多いので、高齢者の福祉のための若年層の経済的負担が大きい。労働力も不足しがちである。（評価 A）

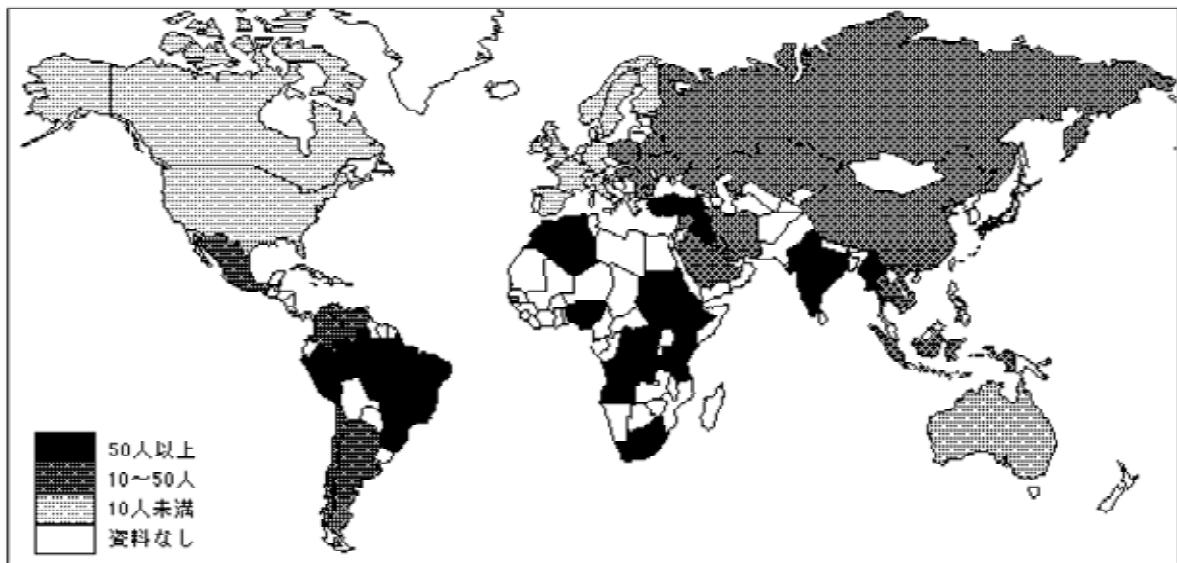
(3)主題図の読み取りを中心とした問題

問 世界の出生率を表す地図Aと乳児死亡率を表す地図Bを見て、～ の設問に答えなさい。

地図A 出生率（1000人あたり：1995～2000年）



地図B 乳児死亡率（1000人あたり：1994年 世界人口白書2002により一部修正）



地図Aから読みとれることは何ですか。

地図Bから読みとれることは何ですか。

二つの地図から、出生率と乳児死亡率にはどのような関係があると言えますか。

判断基準（採点基準）

A	では出生率、では乳児死亡率の、高い地域と低い地域の両方を読み取っている。複数の地域について読み取っている。
B	高い地域または低い地域の片方のみ読み取っている。地域については1か所のみ読み取っている。では「出生率」、では「乳児死亡率」の語が抜けている。
A	出生率の高い地域は乳児死亡率も高い傾向にあることを読み取っている。
B	出生率の高い地域は乳児死亡率の高い地域と一致していると読み取っている。

## 生徒の回答状況

正答率は、83.3%、75%、66.7%であった。 の読み取りはおおむねできているが、「出生率が」の部分が抜けている文章がいくつかあった。 では、出生率と乳児死亡率との関係に気づいてはいるが、「比例している」と表現してしまった回答があった。

## 生徒の解答例

- ・ アフリカや西アジアの出生率が高く、アメリカ、ヨーロッパ、日本など先進国は低い。(評価A)
- ・ アフリカの出生率が高い。(評価B)
- ・ 先進国は死亡率が低い、アフリカなどは高い。(評価A)
- ・ アフリカ、南アジア、南米は高く、北米、ヨーロッパ、日本は少ない。(評価B)
- ・ 出生率が高いと乳児死亡率も高い傾向がある。(評価A)
- ・ 出生率と乳児死亡率は比例している。(評価B)

## 10 成果と課題

### (1) 授業の改善に生かす評価

診断的評価により、知識、意欲ともに不十分な生徒が3分の2を占めることがわかり、生徒のレディネスを把握できた。生徒にとっても、これから学ぶ単元の内容や概要がわかり、学習に対する主体性を高める効果があったと思われる。

授業を進める際には、単元の評価計画に従い、生徒の到達度や定着度を評価した。このことにより、生徒はどの力が不足しているのか、何を理解できていないかなどを把握することができたので、次に何を、どのように指導するかを明確にすることができ、よりの確な指導ができた。その結果、生徒にとってわかりやすい授業になり、ペーパーテストの結果も良好であった。

### (2) 評価の場面設定

観点別の評価計画を作成する際、授業中の評価場면을絞り込み、評価項目を少な目に設定した。また、生徒数が12名と少ないこともあり、評価は十分に可能であると考えていた。

ところが、実際に授業をしてみると、判断基準が明確でなかったり、評価方法が適切でなかったりなどの不十分な点があったため、適切に評価できなかった項目や、生徒全員の評価はできなかった場面があった。

### (3) 地理的技能の向上

「ペーパーテストの工夫」で取り上げたような、文章で解答させる問題やグラフを読み取る問題については、従来は白紙解答の生徒が多く見られたが、今回は生徒全員が何らかの解答を記入していた。ワークシートを用い、さまざまな資料を扱い、地理的技能の向上を生徒に強く意識させる授業を展開した結果、図やグラフを読み取る力はかなり身に付いたと思われる。

### (4) 今後の課題

今回の研究から、今までの授業やテストにおいては、生徒一人一人の学習状況を十分には把握していなかったことを痛感した。年間を通して、4観点を意識した評価を行いながら授業を進めることができれば、授業の質の改善につながり、生徒の力をより向上させることができると感じた。

評価の場面設定については、1時間の授業の評価項目は、あまり多くしないほうがよいと感じた。1時間の中で4観点すべてを評価するのではなく、それぞれの時間で重点的に評価する観点を絞り込み、単元というまとまりの中で4観点からの評価を完成させるのが適切であると考えられる。

「資料活用の技能・表現」については、資料を読み取れても、その内容を適切に表現することができない生徒が多く、表現力を身に付けさせる指導の必要性を感じた。

### 指導事例 3

## 「日本史 B」の人物学習における指導と評価

### 1 指導計画・評価計画

(1)対象生徒 3年生 21名(選択授業)

(2)単元 織豊政権と幕藩体制の形成

(3)単元の目標

織豊政権の統一政策、幕藩体制の特質を理解させる。

信長、秀吉、家康の主要な政策の意図やその歴史的な意義を追究、考察させる。

(4)単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
織豊政権、幕藩体制の特質に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。	織豊政権、幕藩体制の特質から課題を見だし、多面的・多角的に考察している。	織豊政権、幕藩体制の特質を追究するために必要な資料を収集・選択して活用している。	織豊政権、幕藩体制の特質についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。

(5)単元の指導計画(9時間)

時	学習活動( : 使用教材等)	指導上の留意点	評価計画
1 信長	信長の幼少時から尾張統一までのエピソードを知る。 ワークシート1の「信長の統一過程」の空欄を埋めて完成させる。 ワークシート1、教科書、図説	・信長への興味・関心を抱かせる。 ・教科書や図説を参考にさせる。	【関心・意欲・態度】 ・信長に関心をもっている。
	ワークシート1の記入事項を確認する。 ワークシート1、教科書、図説	・生徒に発表させながら確認を行い、必要な説明を加える。 ・未記入や誤りは正すよう指導する。	【知識・理解】 ・信長の統一過程を理解し、必要な知識を身に付けている。
2 信長	長篠合戦の経緯を学び、合戦の意義を考察する。 長篠合戦図屏風 ワークシート1	・合戦の流れを確認させながら説明する。 ・長篠合戦の意義を、鉄砲に着目させながら質疑応答を行い、まとめさせる。	【資料活用の技能・表現】 ・長篠合戦図屏風を、鉄砲に着目して読み解いている。
	キリスト教の扱いや仏教勢力との対立について学び、信長の宗教政策の意図や意義を考察する。 ワークシート1、教科書、図説	・キリスト教と外国貿易との関係にも触れる。	【知識・理解】【思考・判断】 ・信長の宗教政策や経済政策を理解し、その目的や意義について考察している。
	楽市・楽座などの経済政策の目的や意義を考察する。 ワークシート1、教科書、図説	・商業発展の観点から説明する。	

	本能寺の変とそこに至る経緯を学習する。 教科書、図説	・信長への興味・関心を高める。	
	自己評価及び学習事項の確認テストを行う。 確認テスト&自己評価票1		【関心・意欲・態度】 ・信長についてさらに学びたいと思っている。
3 秀吉	秀吉の出生から本能寺の変直前までのエピソードを知る。 ワークシート2の「秀吉の統一過程」の空欄を埋めて完成させる。 ワークシート2、教科書、図説	・秀吉への興味・関心を抱かせる。 ・教科書や図説を参考にさせる。	【関心・意欲・態度】 ・秀吉に関心をもっている。
	ワークシート2の記入事項を確認する。 ワークシート2、教科書、図説	・生徒に発表させながら確認を行い、必要な説明を加える。 ・未記入や誤りは正すよう指導する。	【知識・理解】 ・秀吉の統一過程を理解し、必要な知識を身に付けている。
4 秀吉	検地について学び、その目的や意義を考察する。(指名・発表) ワークシート2、教科書、図説	・全国統一の基準で行われたことを説明する。	【知識・理解】【思考・判断】 ・秀吉の各政策を理解し、その目的や意義について考察している。
	刀狩について学び、その目的や意義を考察する。(指名・発表) ワークシート2、教科書、図説 秀吉の農民統制政策の結果について考察する。 ワークシート2	・秀吉が農民出身であることに着目させる。 ・「刀狩令」を現代語訳したものを示す。	
5 秀吉	キリスト教政策について学び、その目的や意義を考察する。 (指名・発表) ワークシート2、教科書、図説	・「バテレン追放令」の内容にも触れる。	【関心・意欲・態度】 ・秀吉についてさらに学びたいと思っている。
	朝鮮出兵について学び、その影響を考察する。(指名・発表) ワークシート2、教科書、図説	・政権崩壊の一因になったことを指摘する。	
	自己評価及び学習事項の確認テストを行う。 確認テスト&自己評価票2		
6 家康	家康の幼少時から秀吉の天下統一時までのエピソードを知る。 ワークシート3の「江戸幕府の開設」の空欄を埋めて完成させる。 ワークシート3、教科書、図説	・家康への興味・関心を抱かせる。 ・教科書や図説を参考にさせる。	【関心・意欲・態度】 ・家康に関心をもっている。

6 家 康	ワークシート3の記入事項を確認する。 ワークシート3、教科書、図説	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒に発表させながら確認を行い、必要な説明を加える。</li> <li>未記入や誤りは正すよう指導する。</li> </ul>	<b>【知識・理解】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>家康の統一過程を理解し、必要な知識を身に付けている。</li> </ul>
	江戸幕府の仕組みや将軍の権力の背景となる経済力・軍事力について学習する。 ワークシート3、教科書、図説	<ul style="list-style-type: none"> <li>将軍の強大な権力を、豊臣政権と比較して考察させる。</li> </ul>	<b>【知識・理解】【思考・判断】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>家康の各政策を理解し、その目的や意義について考察している。</li> </ul>
	家康が子の秀忠に将軍職を譲ったことの意味を考察する。 ワークシート3	<ul style="list-style-type: none"> <li>徳川氏以前には豊臣氏が権力を握っていたことを示唆する。</li> </ul>	
7 家 康	大名の区分とその統制の方法について学習する。 ワークシート3、教科書、図説 朝廷、寺社、農民の支配について学習し、その意図や意義を考察する。 ワークシート3、教科書、図説	<ul style="list-style-type: none"> <li>統制のために制定された法令とその内容について、具体例をもとに説明する。</li> </ul>	
	自己評価及び学習事項の確認テストを行う。 確認テスト&自己評価票3		<b>【関心・意欲・態度】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>家康についてさらに学びたいと思っている。</li> </ul>
	次時からの調べ学習についての説明を聞く。 ・テーマ：ある一つの分野における3人の政策を比較しながらまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>共通点や相違点、それぞれの政策の影響などに留意するよう指導する。</li> </ul>	
8 9 課 題 追 究 学 習 ・ 自 己 評 価	調べ学習 ・教科書、図説、配布プリント、図書館の蔵書等を利用してまとめ、レポートとして提出する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>司書に協力を依頼しておき、関連図書を集めておいてもらう。</li> <li>図書室で、個人ごとに活動する。</li> </ul>	<b>【資料活用の技能・表現】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業で学んだことをもとに、必要な資料を適切に収集・選択し、まとめている。</li> </ul> <b>【知識・理解】【思考・判断】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>正しい事実に基づき、3人の政策を比較しながら総合的に考察し、自分の考えをもっている。</li> </ul>
	単元の学習を振り返って、自己評価票の記入を行う。 自己評価票4	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己評価票4を配布し、説明を加える。</li> </ul>	<b>【関心・意欲・態度】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>織豊政権と幕藩体制の特質に関心をもち、意欲的に追究している。</li> </ul>

## 2 各人物についての「ワークシート」と「確認テスト&自己評価票」

### (1) 「ワークシート」

授業では、各人物の生い立ちを取り上げ、エピソードも紹介するなどして、人物に対して親しみを持てるよう工夫した。

空欄は、基礎的・基本的な事項とした。空欄に入れる文言は、用語・歴史的名辞としての一体感に配慮した。(例：『[ ] 県』ではなく、『[ ] 県』)

また、各人物の主要な政策の意図やその歴史的な意義を考察・追究させる項目を設けた。

### (2) 「確認テスト&自己評価票」

「確認テスト」では、授業で取り扱った基礎的・基本的な知識の定着を図った。授業で考察した、各人物の主要な政策についても、自分の言葉で説明させることにより、生徒自身が自己の学習状況を確認できるようにした。

「自己評価票」では、生徒に、各人物についての学習(各2~3時間)を振り返らせ、「関心・意欲・態度」に関する項目も設けた。

記入させた後に回収し、内容に応じた助言を書き添えて、次の授業で返却した。

### ワークシート1 織田信長の統一事業 (第1・2時間目用)

#### 1 信長の生い立ち

- 1534 尾張(現在の[ ] 県)の(那古野)城で生まれる。  
穀倉地帯で経済的に豊かな[ ] 平野]に広がる。
- 48 美濃(現在の岐阜県)の斎藤道三の娘と結婚する。
- 51 父の信秀死去、織田家を継ぐ。
- 59 尾張を統一。

#### 2 信長の統一過程

- 1560 [ ] の戦いで [ ] を破る。  
[ ] を将軍にたてて京都に入る。
- 70 浅井長政・朝倉義景を姉川の戦いで破る。  
石山本願寺と対決(石山戦争)各地に [ ] 一揆]おこる。
- 71 比叡山 [ ] 寺]を焼き討ちする。
- 73 将軍 [ ] を追放する。 = [ ] 幕府] 滅亡
- 75 [ ] 合戦]で鉄砲を使用し、 [ ] を破る。  
越前(現在の福井県)の [ ] 一揆]を平定する。
- 76 [ ] 城]建設を開始する(79年に完成)。
- 80 石山本願寺が降伏する。
- 82 天目山の戦いで武田氏を滅亡させる。
- 82 [ ] 寺]の変([ ] の謀反<sup>むほん</sup>)により自害する。

#### 4 「長篠合戦図屏風」を見て、長篠合戦の意義について考えてみよう。

#### 5 信長の宗教政策について学ぼう。

- (1)キリスト教をどのように扱ったのか調べてみよう。

(2)延暦寺、石山本願寺や一向一揆を制圧した目的を考えてみよう。

6 信長の経済政策について学ぼう。

(1)京都や堺を直轄領にした目的を考えてみよう。

(2)「楽市・楽座」とはどのような政策か、調べてみよう。

(3)「楽市・楽座」以外の経済政策について調べてみよう。

7 信長の斬新さに着目して、彼の宗教政策と経済政策の歴史的意義についてまとめてみよう。

### 確認テスト&自己評価票1(織田信長) (第2時間目を実施)

1 信長の政策と統一事業に関する以下の問いに答えなさい。

(1)信長が今川義元を破った戦いは?

(2)信長が1571年に焼き討ちした寺はどこか。

(3)信長が鉄砲を効果的に使用した戦いは?

(4)信長が本拠地として琵琶湖のほとりに築いた城は?

(5)信長が明智光秀の謀反によって自害した出来事を何というか?

(6)信長の重要な経済政策を一つあげ、それがどのような政策であり、どのような目的で行われたのかを、簡単に説明しなさい。


政策名
政策の内容
政策の目的

2 信長について学んだ授業を振り返って、A~Dで自己評価しなさい。

A:当てはまる(よくできた)

B:だいたい当てはまる(だいたいできた)

C:あまり当てはまらない(あまりよくできなかった)

D:まったく当てはまらない(まったくできなかった)

}自己評価票2・3では省略

(1)信長という人物に興味・関心をもち、もっと調べてみたいと思った。

(2)信長の統一過程がわかった。

(3)キリスト教政策を理解できた。

(4)仏教勢力と対決した意図を考えることができた。

(5)「楽市・楽座」の目的を考えることができた。

A - B - C - D
A - B - C - D
A - B - C - D
A - B - C - D
A - B - C - D

3 信長のどのようなところに興味・関心をもちましたか?あるいは、さらにどのようなことを調べてみたいと思いましたか?また、信長について疑問に思ったことはありますか?

--



## ワークシート2 豊臣秀吉の天下統一 (第3～5時間目用)

### 1 秀吉の生い立ち

- 1537 尾張(現在の[ ] 県)の百姓の家に生まれる。  
55頃 織田信長に仕える。

### 2 秀吉の統一過程

- 74 近江国(現在の滋賀県)長浜の城主となる。  
77～ 中国地方の毛利氏と戦う。  
「本能寺の変」の時点には、備中(現在の岡山県)高松城を攻撃中。  
1582 本能寺の変(織田信長が[ ]の謀反により自害する。)  
山崎の合戦で[ ]を破る。  
[ 太閤 ]を開始する。  
83 賤ヶ岳の戦いで柴田勝家を破る  
[ ]城の建設を開始する(85年に完成)。  
84 小牧・長久手の戦いで、[ ]と交戦したのち和睦する。  
85 朝廷から[ ]に任命される。  
86 太政大臣となり、[ ]の姓をたまわる。  
87 九州平定  
バテレン追放令を出す。  
88 [ ]令を出す。  
90 [ ]攻めにより北条氏を滅ぼす。  
奥州平定 = 全国統一を完成

### 3 秀吉の晩年

- 1591 [ ]令を出す。  
1592・97 [ ]出兵(文禄・慶長の役)  
93 子[ ]誕生する。  
98 死去

### 4 検地について学ぼう

- (1)「検地」の実施方法やその内容について調べてみよう。  
(2)秀吉が検地を行った目的を考えてみよう。

### 5 刀狩について学ぼう。

「刀狩令」現代語訳(原文は教科書P )

- 一、百姓達が、刀・槍・鉄砲などの武器を持つことを堅く禁止する。その理由は、不必要な道具を持っていると、年貢を出し渋り、万一にも一揆を企てる者達は当然処罰されるべきであり、そうなるとその土地は不作になり、土地が無駄になるので、大名らの責任において百姓達の武器を全て没収しなさい。  
一、没収した刀などは無駄にせず京都方広寺の大仏を建立する際の釘などに使用することとする。(以下略)

- (1)刀狩令を出した時、どんな理由をつけたのか、史料を読み取ってみよう。

(2)秀吉が刀狩を行った本当の目的を考えてみよう。

6 検地・刀狩・身分統制令の結果、農民にとってはどのような変化があったのかまとめてみよう。

7 バテレン追放令について学ぼう。

(1)秀吉のキリスト教政策について調べてみよう。

(2)秀吉がバテレン追放令を出した目的を考えてみよう。

8 朝鮮出兵の影響について考えてみよう。

9 秀吉が天下統一を果たしたことの歴史的意義についてまとめてみよう。

### 確認テスト&自己評価票2(豊臣秀吉) (第5時間目に実施)

1 秀吉の政策と統一過程に関する以下の問いに答えなさい。

(1)秀吉が山崎の合戦で打ち破った人物は誰か？

(2)秀吉が本拠地として石山本願寺跡に築いた城は？

(3)秀吉は何という地位について日本全国の支配者となったか？

(4)秀吉は1592年と97年に国外に出兵した。どこに出兵したのか？

(5)秀吉の重要な政策を一つあげ、それがどのような政策であり、どのような目的で行われたのかを、簡単に説明しなさい。

政策名
政策の内容
政策の目的

2 秀吉について学んだ授業を振り返って、A～Dで自己評価しなさい。

(1)秀吉という人物に興味・関心をもち、もっと調べてみたいと思った。

A - B - C - D

(2)秀吉の天下統一の過程がよくわかった。

A - B - C - D

(3)「検地」の方法が理解できた。

A - B - C - D

(4)「検地」の目的を考えることができた。

A - B - C - D

(5)「刀狩」の目的を考えることができた。

A - B - C - D

(6)「バテレン追放令」の目的を考えることができた。

A - B - C - D

(7)「朝鮮出兵」の影響を考えることができた。

A - B - C - D

3 秀吉のどのようなところに興味・関心をもちましたか？あるいは、さらにどのようなことを調べてみたいと思いましたか？また、秀吉について疑問に思ったことはありますか？

--

### ワークシート3 徳川家康の政権獲得・江戸幕府開設 (第6・7時間目用)

#### 1 家康の生い立ち

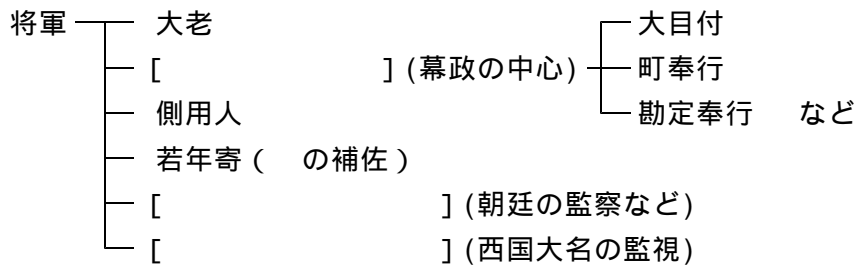
- 1542 三河(現在の[ ] 県)の岡崎城主 松平家に生まれる。  
 47~60 織田氏、今川氏の人質となる。  
 60 桶狭間の戦い後、今川氏から独立する。  
 72 三方原の戦いで武田信玄に敗れる。  
 82 天目山の戦いで武田氏を滅ぼす。  
 84 [ ] 戦いで秀吉と交戦して和睦し、のち秀吉に従う。  
 90 関東地方に250万石の領地を与えられる。(本拠地 = [ ])  
 98 秀吉死去  
 [ ] の筆頭として、秀頼を補佐する。

#### 2 家康の政権獲得・江戸幕府開設

- 1600 [ ] の戦いで、[ ] らを破る。  
 03 [ ] に任命され、江戸幕府を開く。  
 05 息子の[ 徳川 ] に将軍職を譲るが、  
 駿府(現在の静岡市)で、大御所として実権を維持する。  
 14 [ ] で秀頼を追いつめる。  
 15 [ ] で秀頼(豊臣氏)を滅ぼす。  
 16 死去

#### 3 江戸幕府のしくみ [ 家康の死後の事項も含む ]

##### (1) 幕府のしくみ (主なもの)



##### (2) 将軍の権力

経済力...直轄地(天領) = 約[ ]万石 (= 全国の約1/7)  
 + 旗本知行地 = 約300万石 } (= 全国の約1/4)

√ { 主要都市(江戸・京都・大坂・長崎など)の直接支配  
 鉱山(佐渡金山・足尾銅山など)の直接支配

商工業・貿易を支配、[ ] を発行する権利。

軍事力... [ ] [ ] = 将軍直属の家臣(約2万2千人)

##### (3) 大名の統制

###### ア 大名の区分

- [ ] (徳川氏の一門)  
 [ ] (徳川氏の古くからの家臣)  
 [ ] (関ヶ原の戦い以降に従った大名 幕府が特に警戒した)

イ 大名統制の基本法 = [ 21 ] (初制定1615年)

主な内容...城の新築禁止、大名同士の婚姻の許可制など

違反者には厳しい処分

[ 22 ] 制度 (大名は1年おきに江戸と各領地を往復する)

(4) 朝廷の支配

[ 23 ] 法度 (1615年制定) + [ ]

(5) 寺社の支配

寺院法度 + 寺社奉行

[ 24 ] 制度 (キリスト教禁教策のひとつ)

(6) 農民の支配

[ 25 ] 百姓 (田畑を持つ) と [ 26 ] 百姓 (田畑を持たない)

五人組に編成され、助け合いと連帯責任を負わされる。

税率は、収穫の [ 27 ] % が原則。他にも負担あり。

[ 28 ] の禁令 (1643年制定)

[ 29 ] 制限令 (1673年)

- 4 家康が子の秀忠に将軍職を譲ったことの意味を考えてみよう。
- 5 家康が大名を厳しく統制した理由を考えてみよう。
- 6 「寺請制度」について調べてみよう。
- 7 農民を厳しく支配した理由を考えてみよう。
- 8 家康が260年も続く幕府を開いたことの歴史的意義についてまとめてみよう。

**確認テスト&自己評価票3 (徳川家康)** (第7時間目に実施)

1 家康の政策に関する以下の問いに答えなさい。

(1) 家康政権の本拠地となった所はどこか？

(2) 家康の政権獲得を決定づけた戦いは？

(3) 家康は武家政権の長として何という地位についたか？

(4) 豊臣家を滅ぼすための2度の戦いを、あわせて何とよぶか？

(5) 幕政の中心となった役職は何か？

(6) 大名統制の基本となった法令は何か？

(7) 家康の重要な政策を一つあげ、それがどのような政策であり、どのような目的で行われたのかを、簡単に説明しなさい。


政策名
政策の内容
政策の目的

- 2 家康について学んだ授業を振り返って、A～Dで自己評価しなさい。
- (1)家康という人物に興味・関心をもち、もっと調べてみたいと思った。
- (2)家康の政権獲得までの過程がよくわかった。
- (3)幕府の仕組みが理解できた。
- (4)将軍の経済力と軍事力の状況を理解できた。
- (5)大名を厳しく統制した理由を考えることができた。
- (6)農民を厳しく支配した理由を考えることができた。
- (7)キリスト教政策について理解できた。

A - B - C - D
A - B - C - D
A - B - C - D
A - B - C - D
A - B - C - D
A - B - C - D
A - B - C - D

- 3 家康のどのようなところに興味・関心をもちましたか？あるいは、さらにどのようなことを調べてみたいと思いましたか？また、家康について疑問に思ったことはありますか？

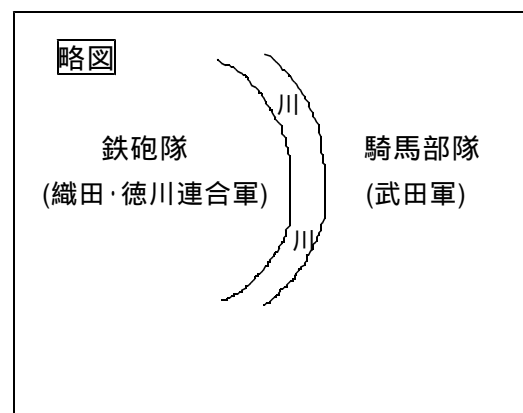
### 3 資料を読み取る場面

#### (1)考え方

「長篠合戦図屏風」は、ほとんどの教科書や図説に掲載されており、最も親しまれている歴史資料の一つである。また、長篠合戦で信長が鉄砲隊を用いたことは、知識としてよく定着している。この知識をもとに、きわめて基本的なレベルではあるが、単なる言葉による記憶にとどまらない、活用できる知識を身に付けさせるため、「合戦図」を資料として読み取らせる場面を設定した。

#### (2)授業展開

教科書（図説）の「長篠合戦図屏風」に注目させる。  
 図の中央をゆるくカーブして流れている川をはさんで、左右に、戦った両陣営が向かい合っていることを説明し、両陣営の装備の違いに着目させる。  
 左側は誰の軍であるか、また、そのように判断した理由な何かを生徒に答えさせる。  
 右側は誰の軍であるか、また、そのように判断した理由な何かを生徒に答えさせる。  
 織田・徳川連合軍が木の柵を用いた陣地を作っていることや、鉄砲隊の動き方について説明する。



### 4 3人の政策についての調べ学習（第8・9時間目）

#### (1)学習のテーマ

3人が行った政策の中から詳しく調べたい分野を一つ選ばせ、3人を比較しながらそれぞれの政策についてまとめさせた。資料は、教科書、図説、配布プリント、図書館の蔵書等を利用させ、成果はレポートとして提出させた。レポートは総括的評価の対象の一つとした。

## 日本史B 課題プリント

課題 織田信長、豊臣秀吉、徳川家康について、一つ分野を選び、その分野でそれぞれが行った政策について、3人を比較しながらまとめなさい。

選んだ政策分野
信長
秀吉
家康

### (2) レポートの内容

21名の生徒が提出したレポートのテーマは、「代表的な戦い」「キリスト教(宗教)」「城(本拠地)」「出身地」に分かれた。「出身地」は“政策”とは言い難いが、生い立ちから出世するまでの過程を比較しており、3人の比較研究になっている。

### (3) レポートの例

生徒が提出したレポートの中から、良い評価の付けられるものや特徴のあるものを下に示す。これ以外にも、1人についてはよくまとまっているが、他の2人についてはやや不十分、というレポートはいくつかあったが、3人全員について優れているものはなかった。

生徒の学びの改善に生かすため、レポートには授業担当者のコメントを記入して、生徒に返却した。

#### 代表的な戦い

信長...長篠の戦い：鉄砲を効果的に用いて武田勝頼を倒した。 桶狭間の戦い：駿河の今川義元の大軍を破り、1568年には京都にのぼって足利義昭を将軍にした。
秀吉...小田原攻め：圧倒的な兵力で城を包囲し、北条氏を降伏に追い込んだ。 賤ヶ岳の戦い：柴田勝家を近江で破り、信長の後継者の地位を獲得した。
家康...関ヶ原の戦い：得意な野戦に持ち込み、反対派を一挙に倒したのち、家康は国内統治の政策をすすめて、1603年征夷大将軍に任じられ、江戸幕府をひらいた。

授業担当者のコメント：  
資料をもとに要領よくまとめてあります。さらに、3人の戦い方の特徴や敗れた側のその後なども調べるといいですね。

#### キリスト教(宗教)

信長...宗教的権威などというものを一切認めようとしなかったが、秀吉、家康のように禁止はしなかった。
秀吉...1587年、九州に出兵の際、博多でバテレン追放令をだして宣教師の国外追放を命じ、布教を禁止した。
家康...秀吉の禁教政策をいっそう強め、1613年には全国にキリスト教禁止令をだし、もと大名であった高山右近らをマニラなどに追放した。35年には日本人の海外渡航と国外にいる日本人の帰国とを全面的に禁止した。

必要な事項を簡潔にまとめてあります。これらの方針・政策をとった理由やその影響にも言及すればなおよかったと思います。

城（本拠地）

信長...「安土城」天下統一のための拠点として築いた城。岐阜から安土に城を移したのは、一つには越後の上杉謙信対策であり、一つには北陸の一向一揆を監視するためであった。1582年の本能寺の変に続く山崎の戦いの余波で焼け落ちた。

秀吉...「大坂城」1532年山科本願寺が焼き討ちされたあと、10世証如によって本願寺がここに移された。豊臣氏時代の太閤が幕府が10メートルほどの土盛りをし、石垣がすべて埋められてしまったうえでまったく新しい縄張りでもって徳川氏の大坂城を築き上げた。（1619年）

家康...「江戸城」1457年、関東管領扇谷上杉氏の家宰太田資長が古河公方足利成氏に対抗するための拠点として築いたが、北条氏の支城となり、北条氏が滅亡したあと入城した徳川家康によって大改修が施された。家康のあと、代々つがれていき、1719年、東西5キロ、南北3.9キロに及び日本最大の城ができあがった。

この3人とは直接関係のない内容も入っているが、授業では取り上げなかった発展的な内容まで記述している点がすぐれています。秀吉・家康がその地を選んだ理由にも言及すればさらによかったと思います。

出身地

信長...1534年、尾張の国（愛知県）那古野城で生まれる。律令制で尾張国と三河国の二国に分かれていた。越前織田庄の出身で尾張国守護斯波氏の被官から守護代（織田常松）となり、信長は清洲城主なる。

秀吉...1537年、尾張の国（愛知県）中村の百姓に生まれる。信長の後を継いだ秀吉は、小田原征伐ののちに天下統一を果たし、関白に任ぜられる。

家康...1542年、三河の国（愛知県）岡崎城で生まれた。関ヶ原の戦いで勝利を収めたのち、江戸を開き三〇〇年の太平の世とした。幕府を開くとともに、尾張藩主には、九男義直を封じて約六十二万石の大藩とした。家康は徳川幕府二六五年の基礎を作った。

欄外

天下を統一した、織田・豊臣・徳川は偶然とはいえ三英傑とも尾張・三河の出身である。

この3人の“政策”からは外れるテーマ設定ですが、3人がともに現在の愛知県出身であることに気付いた点がよかったです。

## 5 単元を振り返っての自己評価

### (1) 生徒の自己評価

単元の最後に、単元全体を振り返った自己評価（「自己評価票4」）を生徒に行かせた。評価は、単元途中での自己評価と同様、A：当てはまる（よくできた）、B：だいたい当てはまる（だいたいできた）、C：あまり当てはまらない（あまりよくできなかった）、D：まったく当てはまらない（まったくできなかった）の4段階とし、生徒の負担を考慮し、評価項目数が多くなりすぎないようにした。また、「3人の人物のどのようなところに興味・関心をもちましたか？あるいは、さらにどのようなことを調べてみたいと思いましたか？また、疑問に思ったことはありますか？」と問い、自由記述で答えさせた。

以下に、生徒19名（2名欠席）による自己評価の集計結果とともに、評価項目と4観点とのかかわりについて 印で示す。

評 価 項 目	評 価				関 意 態	技 ・ 表	思 ・ 判	知 ・ 理
	A	B	C	D				
信長の統一過程が理解できたか？	7	11	1	0				
秀吉の統一過程が理解できたか？	5	13	1	0				
家康の統一過程や江戸幕府のしくみが理解できたか？	3	12	4	0				
信長・秀吉・家康の3人のいずれかについて、「これはなぜか？」と疑問をもったか？	6	6	7	0				
3人の政策の目的や意義などについて考えることができたか？	6	6	7	0				
3人いずれかの生涯や政策について、テーマを決め、興味をもって調べることができたか。	7	9	2	1				
3人の情報を適切に収集し選択することができたか？	4	7	8	0				
3人の政策を比較しながら総合的に考え、レポートにまとめることができたか？	3	11	4	1				
単元途中での「確認テスト&自己評価票」には真剣に取り組んだか？	7	6	5	1				
この単元を学んで、歴史に対する興味・関心は高まったか？	5	9	2	3				

自由記述欄に生徒が記入した事項の主なものを示す。

信長：本能寺の変がおきた理由や内容をもっと知りたい。

本能寺の変で自害したとき、どんな心境だったのか。(本人しかわからないので)人柄、どういう考え方をしているかなど。

商人が自由に営業ができる楽市・楽座の制に関心をもった。

秀吉：なにがあって信長の部下になったのか。

なぜ朝鮮に攻撃をしかけたのかわからなかった。

秀吉はどんな生活をしていたか。

家康：家臣たちのまとめかた。

なぜ天ぷらの食べ過ぎで死んだのか。

徳川家が15代まで続いた理由。

## (2)自己評価の結果から

全項目にA評価をつけた生徒が2名いた。それ以外の生徒については、やや甘い評価結果といえるが、おおむね真面目に自己評価に取り組んだと考えられる。

「統一過程が理解できたか」では、信長、秀吉、家康の順に、A評価が減少し、C評価が増加しているが、江戸幕府のしくみには複雑な面もあるので、このような結果になったとも考えられる。

「この単元を学んで、歴史に対する興味・関心は高まったか？」については、14名がA評価またはB評価である反面、D評価が3名いた。こうしたD評価の生徒の「関心・意欲・態度」を高めるような指導の工夫を考える必要がある。



また、自己評価票を生徒に返却して次の指導に生かすことが大切である。自由記述の内容に対して、「あなたが信長だったら自害するときにはどういう心境になるでしょう?」とか、「家康のもとにたくさんの家臣が従ったのは、家康の人的魅力もあったのかもしれませんが。家康関係の本がたくさん出ていますから、公立の図書館などで探して、調べてみてはどうですか?」などと書き添えることが、生徒が新たな学習活動に取り組むきっかけになると考えられる。

## 6 成果と課題

### (1) 基礎的・基本的な知識の定着と「関心・意欲・態度」の向上

信長、秀吉、家康の3人を取り上げ、初めに生い立ちや人柄などのエピソードを紹介し、興味・関心を喚起した上で、主な政策について資料をもとに考察させた。各人物の学習の区切りには確認テストを行い、基礎的・基本的な知識の確実な定着を図った。あわせて、その人物についての学習を振り返らせ、自らの学習姿勢を自己評価させた。

単元の初め頃には発問してもなかなか答えが返ってこなかったが、このような学習活動を繰り返すことにより、次第に自分から考えようとする姿勢が多くの生徒に見られるようになり、単元の後半には自ら考えたことを、まとめ、発表することができるようになった。

3人の政策について比較したレポートを見ると、授業で扱う内容以上のことをまとめているものもあり、課題を主体的に追究していたことがわかった。

単元全体を振り返っての自己評価では、「知識・理解」にかかわる項目で、多くの生徒がおおむね満足できる結果となり、歴史に対する興味・関心の高まりも見られた。確認テストによって、基礎的・基本的な知識が身に付き、その知識をもとに考察したり課題を追究したりすることができるようになり、学習した人物に対する関心が高まり、主体的に学ぼうとする姿勢が育ってきた。

### (2) 今後の課題

歴史上の人物や出来事に対して、「なぜ?」という疑問をもつことは、歴史を主体的に学ぶことの第一歩であるといえる。疑問をもつための前提として、基礎的・基本的な知識を身に付けておく必要があるが、従来の授業は、知識を定着させることに終始しがちであったため、教師が説明し、生徒はそれを聞いてノートにまとめるというかたちになっていた。その結果、生徒の学習姿勢は受け身になり、「歴史＝暗記科目」という印象を抱かれてしまっていた。

生徒に学習活動を通じて疑問を持たせ、その疑問を、教師とのやりとりを通して解決したり、自ら資料を探するなどして主体的に追究、解決したりする学習を促すことが大切である。

## 成果と課題

今回の研究で得られた成果と課題をまとめた。

### 1 研究の成果

#### (1) 診断的評価や学習指導の過程における評価

教師にとっては、単元開始時の診断的評価によって生徒のレディネスを確認することができ、学習指導の過程における評価によって生徒の学習状況を把握でき、よりの確な指導ができた。

生徒にとっては、診断的評価によってこれからの学習内容や学習目標を確認することができ、学習に対する主体性を高めることができた。また、提出したワークシートに教師からの助言を書き添えて返却したことや、確認テストによる自己チェックによって、自己の学習状況を把握することができ、学習の改善につながった。

#### (2) 生徒の自己評価・相互評価

診断的評価や学習指導の過程における評価に加えて行ったことにより、教師にとっては生徒の考えや感想などを捉えやすくなり、「関心・意欲・態度」をはじめとする生徒の学習状況を一層把握でき、授業の改善に生かすことができた。

生徒にとっては、教師による評価や生徒同士による相互評価の結果を知らされることで、自己評価の結果との違いを認識し、自己を評価する力や自己の学習活動全体を見通す力（いわゆるメタ認知）が育まれ、主体的に学ぼうとする意欲が芽ばえてきた。

#### (3) 「知識・理解」に偏らない授業の工夫

ワークシート、確認テスト、課題追究学習、調べ学習などの学習活動を行い、教師が指導・助言を加えることにより、地理的技能が向上したり、自分の考えをまとめる力がついたりするなど、「技能・表現」や「思考・判断」の力が向上した。

また、基礎的・基本的な知識の定着度が高まり、学習意欲も向上した。なかには、自ら発展的な課題を設定し、主体的に追究する生徒もいた。

### 2 今後の課題

#### (1) 限られた時間で実施できる課題追究学習の工夫

各指導事例では、課題を追究する活動を取り入れたが、かなりの時間を要してしまった。

課題追究学習については、何時間もかけるものだけでなく、1時間あるいは20～30分で取り組めるものを研究・開発していくことも求められている。年間指導計画に明確に位置づけ、限られた時数で学習効果をあげられる指導方法を工夫していく必要がある。

また、課題追究学習を実施する際には、教師は生徒に対して追究の仕方を十分に指導する必要がある。初めは、教師が設定したいくつかの課題の中から選ばせる方法もある。生徒は、課題設定、情報の収集・選択・まとめ、考察、発表というサイクルを何度も繰り返すことを通して、自ら課題を設定し追究する力を身に付け、教師も追究の指導の仕方が上達していくものと考えられる。

#### (2) 生徒の自己評価・相互評価の活用

自己評価や相互評価は、そのまま学業成績（評定）に反映させるものではなく、生徒自身が自己の学習過程を振り返り、改善すべき点や課題を発見し、学習状況の改善に生かすという趣旨で用いることが望ましい。

生徒の自己評価や相互評価を実施する際には、教師は評価項目を精選し、具体的な判断基準を示す必要がある。そして、生徒の自己評価や相互評価の能力を育成するには時間がかかるので、回数を重ねて体験させることが大切である。初めは低いレベルの自己評価であっても、教師や他の生徒による評価結果を知らせることで、自己評価の能力は高まっていく。学習の振り返りを行う習慣を付けるためにも、自己評価の結果を安易に批判するようなことがないようにしたい。

また、生徒の自己評価は、教師にとっても、ペーパーテスト等では直接判断しにくい「関心・意欲・態度」などの評価の信頼性を高めるのに有効であり、自己評価の結果を分析することにより、授業の改善につなげることができる。

### (3)適切な評価規準設定及び評価技術の向上

具体的な評価規準については各学校で設定することになっているが、設定した評価規準が適切であるかについて十分に検討し、実践を重ねながら改善していく必要がある。また、到達度を判断する基準についても、教師と生徒の双方が納得できる、より妥当性の高いものにしていく必要がある。

今回は、生徒が6名、12名、21名の授業であったが、不慣れなことも加わり、単元の評価計画を作成することは大きな負担であり、実際に評価する際には予想した以上に困難を感じた。通常の人数の授業を進める過程で、観点別の評価規準に基づいた適切な評価をどのように行うかについては、今後の課題である。

現在、指導と評価の一体化を一層推進することが求められており、学校あるいは教科、科目としての評価の方針や内容、方法などについて、教師間の共通理解を図り、各教師が指導と評価についての技量を高めていく必要がある。